

2018/08/09

新刊ニュース（寄贈による）

最近寄贈された2つの資料について、大変ありがたいご寄贈でしたので感謝とともにご報告し、紹介いたします。

+西脇純先生による寄贈

Johann Sebastian Bach Matthäus-Passion BWV 244 Bärenreiter Facsimile

これはベルリン市立図書館が所蔵するバッハのマタイ受難曲の自筆楽譜のファクシミリ版です。マタイを歌われる方はピアノ・ヴォーカルスコアを使用されていると思いますが、ドイツの国家事業でもあったバッハの批判的校訂版を合わせて参照することもお勧めしてきました。アルフレッド・デュル氏による校訂で1971年に出版されています。

しかしさらにこの自筆楽譜も参照することによって、よりバッハに近づいていただきたいと思います。目次が完備しておりますのである特定の aria、あるいはコラールを見たいときにもページ番号からオリジナルにたどりつくことができます。また巻末に解説があり、バルバラ・シュナイダー-ケンプ、クリストフ・ヴォルフ、マルティナ・レブマンらが執筆しています。

「禁帯出」のラベルを貼って、新バッハ全集の横に配架いたしますので、是非、演奏に、研究に役立ててください。

+中世ルネサンス音楽史研究会による寄贈

グイド・ダレッツォ著「ミクロログス」（音楽小論）全訳と解説

日本語でミクロログスが読める日を心待ちにしていました。2001年にグロケイオの「音楽論」を全訳された同研究会は1979年にティンクトリスの「音楽用語定義集」も訳されています。ダレッツォについては皆さんもソルミゼーションの勉強を通してある程度ご存知かと思います。今回の出版はミクロログスに加えて参考資料として「韻文規則」「アンテイフォナリウム序文」、「未知の聖歌に関するミカエルへの書簡」が抜粋で訳されています。また訳者による解説論文も貴重です。

追記ですが、上述のグロケイオの「音楽論」には《教会音楽》の章もありますので、13世紀の理論家による教会音楽の様々な定義やタームを確認するにも役立つかと思います。

杉本ゆり記